

材料の力学1 Step 2 第10回演習問題 (2021/6/29 実施)

- [1] 一方の端 (点O) で壁に固定された長さ $2L$ のはりに分布荷重 p が、点A ($x=L$) に集中荷重 P が負荷されている。はりの縦弾性係数を E 、断面2次モーメントを I として以下の問い合わせに答えよ。

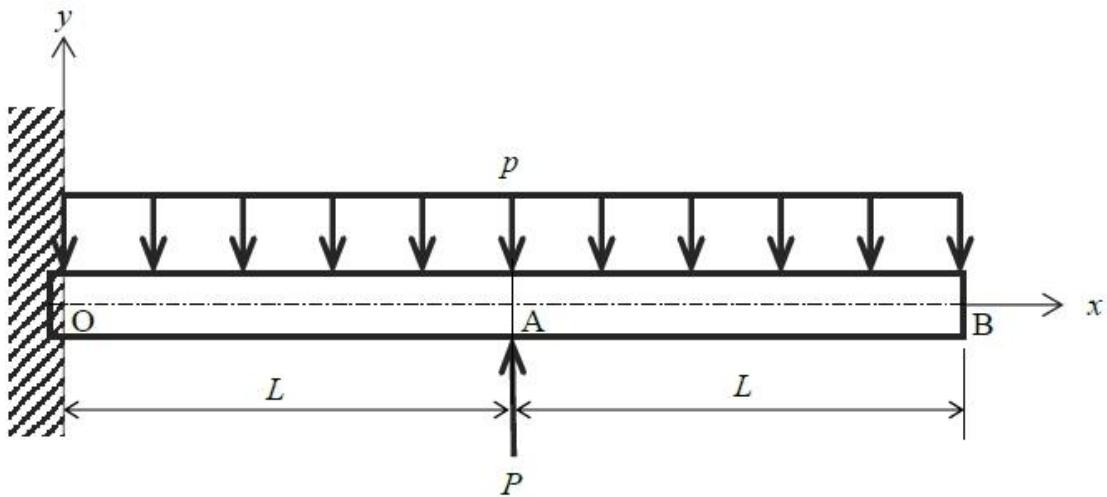


Fig.1 分布荷重を受けるはり。

- (1) はりのFBDを描き、点Oに作用する反力 R_o 、反モーメント M_o を求めよ。
- (2) はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ をそれぞれ求めよ。
- (3) はりのたわみ角 $\nu'(x)$ および、はりのたわみ $\nu(x)$ をそれぞれ求めよ。
- (4) はりの先端 (点B) のたわみ角 ν'_B 、たわみ ν_B をそれぞれ求めよ。

(1) はりの FBD を描き、点 O に作用する反力 R_O 、反モーメント M_O を求めよ。

はりの FBD は、次のように表される。

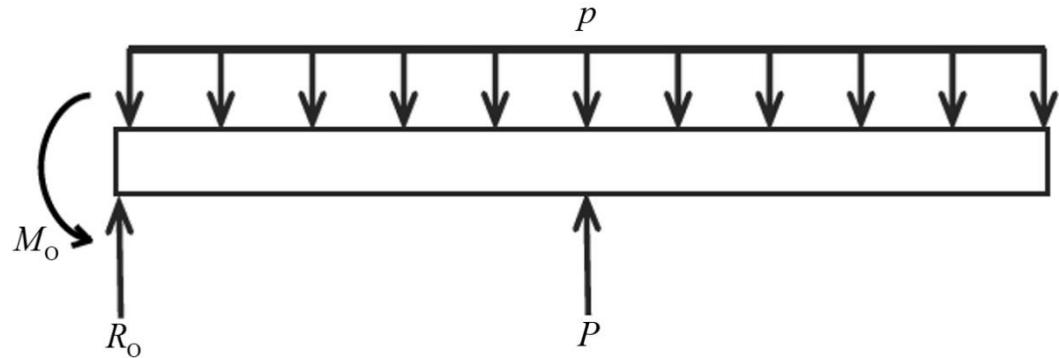


Fig.1.1 FBD.

力のつり合いより

$$\begin{aligned} R_O + P - 2pL &= 0 \\ R_O &= 2pL - P \end{aligned} \tag{1.1}$$

点 O まわりの力のモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} -M_O + \int_0^{2L} pxdx - PL &= 0 \\ M_O &= 2pL^2 - PL \end{aligned} \tag{1.2}$$

(2) はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ をそれぞれ求めよ。

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

はりの FBD は次のように表される。

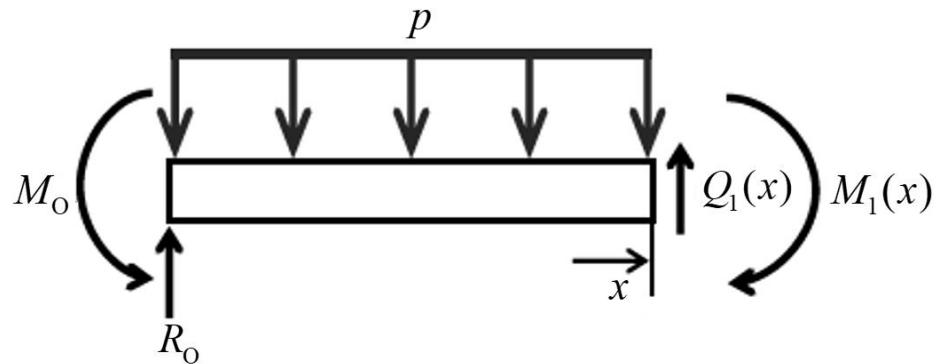


Fig. 1.2 FBD

力のつり合いより

$$\begin{aligned}
R_0 + Q_1(x) - px &= 0 \\
Q_1(x) &= px - R_0 \\
&= px + P - 2pL
\end{aligned} \tag{1.3}$$

x 点まわりのモーメントのつりあいより

$$\begin{aligned}
-M_0 + R_0 x - \int_0^x p x dx + M_1(x) &= 0 \\
M_1(x) &= M_0 - R_0 x + \frac{1}{2} p x^2 \\
&= \frac{1}{2} p x^2 + (P - 2pL)x + (2pL^2 - PL)
\end{aligned} \tag{1.4}$$

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

はりの FBD は次のように表される。

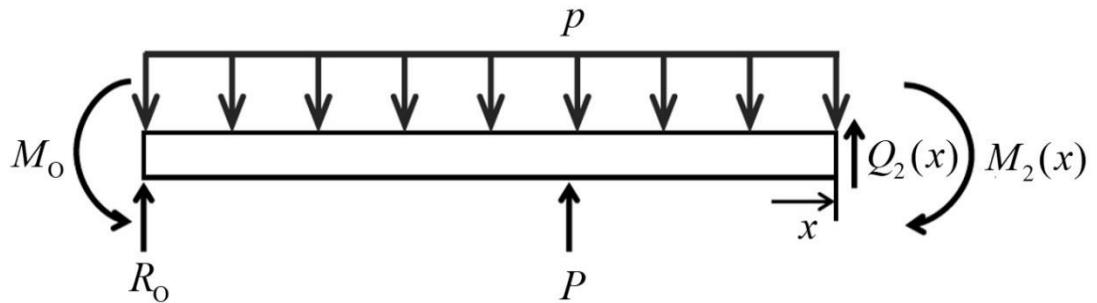


Fig. 1.3 FBD.

力のつりあいより

$$\begin{aligned}
R_0 + P + Q_2(x) - px &= 0 \\
Q_2(x) &= px - R_0 - P \\
&= px - 2pL
\end{aligned} \tag{1.5}$$

x 点まわりのモーメントのつりあいより

$$\begin{aligned}
-M_0 + R_0 x + P(x-L) - \int_0^x p x dx + M_2(x) &= 0 \\
M_2(x) &= 2pL^2 - PL - x(2pL - P) - P(x-L) + \frac{1}{2} p x^2 \\
&= \frac{1}{2} p x^2 - 2pLx + 2pL^2
\end{aligned} \tag{1.6}$$

よって、はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ は、

$$Q(x) = \begin{cases} P + p(x-2L) & (0 \leq x \leq L) \\ p(x-2L) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.7)$$

$$M(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}px^2 + (P-2pL)x + (2pL^2 - PL) & (0 \leq x \leq L) \\ \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.8)$$

と表される。

(3) はりのたわみ角 $\nu'(x)$ および、はりのたわみ $\nu(x)$ をそれぞれ求めよ。

はりのたわみに関する基礎式は

$$-EI\nu''(x) = M(x) \quad (1.9)$$

と表される。

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると、

$$-EI\nu''_1(x) = \frac{1}{2}px^2 + (P-2pL)x + (2pL^2 - PL) \quad (1.10)$$

$$\nu'_1(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}px^3 + \left(\frac{1}{2}P - pL \right)x^2 + (2pL^2 - PL)x + C_1 \right\} \quad (1.11)$$

$$\nu_1(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24}px^4 + \left(\frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL \right)x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2}PL \right)x^2 + C_1x + C_2 \right\} \quad (1.12)$$

(C_1, C_2 :積分定数)

境界条件より、 $\nu'_1(0) = \nu_1(0) = 0$ となるため、 $C_1 = C_2 = 0$ となる。よって

$$\nu'_1(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6}px^3 + \left(\frac{1}{2}P - pL \right)x^2 + (2pL^2 - PL)x \right\} \quad (1.13)$$

$$\nu_1(x) = -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24}px^4 + \left(\frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL \right)x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2}PL \right)x^2 \right\} \quad (1.14)$$

と表される。

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると,

$$-EI\nu_2''(x) = \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 \quad (1.15)$$

$$\nu_2'(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6}px^3 - pLx^2 + 2pL^2x + C_3 \right) \quad (1.16)$$

$$\nu_2(x) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24}px^4 - \frac{1}{3}pLx^3 + pL^2x^2 + C_3x + C_4 \right) \quad (1.17)$$

(C_3, C_4 :積分定数)

$x=L$ のときのたわみ角 $\nu_1'(L) = \nu_2'(L)$ とたわみ $\nu_1(L) = \nu_2(L)$ の条件により, C_3, C_4 を決定する.

$$\nu_1'(L) = \nu_2'(L) \quad (1.18)$$

$$-\frac{1}{EI} \left(-\frac{1}{2}pL^2 + \frac{7}{6}pL^3 \right) = -\frac{1}{EI} \left(C_3 + \frac{7}{6}pL^3 \right) \quad (1.19)$$

$$C_3 = -\frac{1}{2}PL^2 \quad (1.20)$$

$$\nu_1(L) = \nu_2(L) \quad (1.21)$$

$$-\frac{1}{EI} \left(-\frac{1}{3}PL^3 + \frac{17}{24}pL^4 \right) = -\frac{1}{EI} \left(C_4 - \frac{1}{2}PL^3 + \frac{17}{24}pL^4 \right) \quad (1.22)$$

$$C_4 = \frac{1}{6}PL^3 \quad (1.23)$$

よってたわみ角 $\nu'(x)$ とたわみ $\nu(x)$ は,

$$\nu'(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{6} px^3 + \left(\frac{1}{2} P - pL \right) x^2 + (2pL^2 - PL) x \right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} px^3 - pLx^2 + 2pL^2 x - \frac{1}{2} PL^2 \right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.24)$$

$$\nu(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{24} px^4 + \left(\frac{1}{6} P - \frac{1}{3} pL \right) x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2} PL \right) x^2 \right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI} \left(\frac{1}{24} px^4 - \frac{1}{3} pLx^3 + pL^2 x^2 - \frac{1}{2} PL^2 x + \frac{1}{6} PL^3 \right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.25)$$

と表される。

(4) はりの先端(点 B)のたわみ角 ν'_B , たわみ ν_B をそれぞれ求めよ。

式(1.24), 式(1.25)に $x = 2L$ を代入すると,

$$\nu'_B = \nu'(2L) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{4}{3} pL^3 - \frac{1}{2} PL^2 \right) \quad (1.26)$$

$$\nu_B = \nu(2L) = -\frac{1}{EI} \left(2pL^4 - \frac{5}{6} PL^3 \right) \quad (1.27)$$

と表される。

- [2] 図 2 に示すようなはりについて考える. 両端 (点 O, 点 C) で単純支持されており, A 点, B 点には集中荷重 P が作用している. はり中央の原点から $3L/2$ の点を点 M とする. はりの断面は図 2(b) に示すようなひし形である. また, はりの弾性係数を E とする. このとき以下の問い合わせよ.

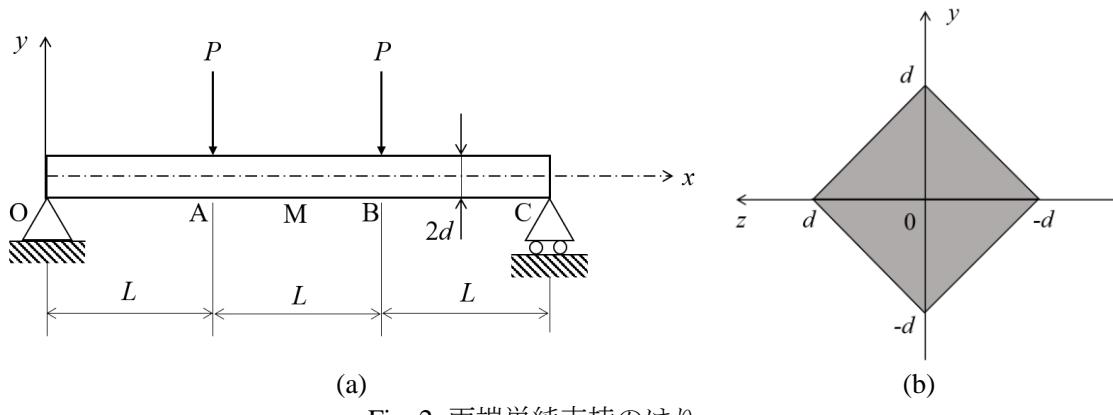


Fig. 2 両端単純支持のはり.

- (1) このはりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ.
- (2) 対称性に注意してはり全体のSFD, BMDを描け.
- (3) 点Oでのたわみ v_0 , 対称性に注意して点Mにおけるたわみ角 ν'_M を求めよ.
- (4) 点 M におけるたわみ ν_M を求めよ.

(1) このはりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z を求めよ.

はりの断面は z 軸に関して対称であるから、図 2.1 のように z 軸上部のみで考える.

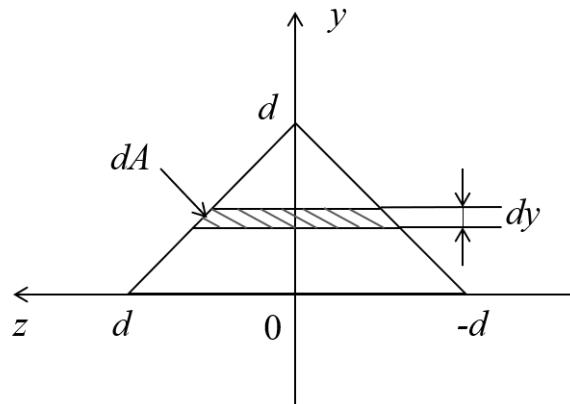


Fig. 2.1

図 2.1 の斜線部に示す微小台形の面積 dA を求めると

$$dA = 2d \frac{(d-y)}{d} dy = 2(d-y)dy \quad (2.1)$$

したがって、このはりの z 軸に関する断面 2 次モーメント I_z は、

$$\begin{aligned} I_z &= 2 \int_A y^2 dA \\ &= 2 \int_0^d y^2 \times 2(d-y)dy \\ &= \frac{d^4}{3} \end{aligned} \quad (2.2)$$

(2) 対称性に注意してはり全体のSFD, BMDを描け.

対称性を考慮すると点 O における反力と点 C における反力は等しいので反力を R_O と置くとはり全体の FBD は図 2.2 のようになる.

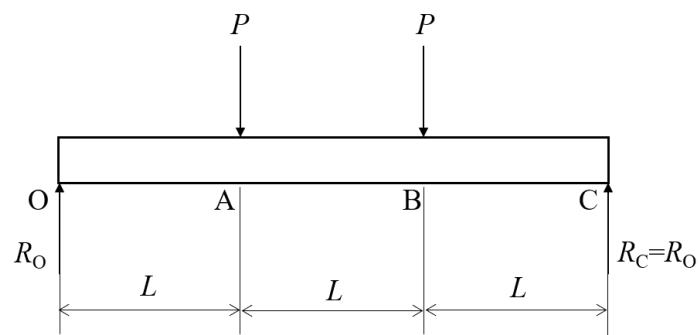


Fig. 2.2 FBD

力のつり合いより

$$\begin{aligned} 2R_o - 2P &= 0 \\ R_o &= P \end{aligned} \tag{2.3}$$

対称性を考慮し, $0 \leq x < 3L/2$ で FBD を考える.

(i) $0 \leq x < L$ の時

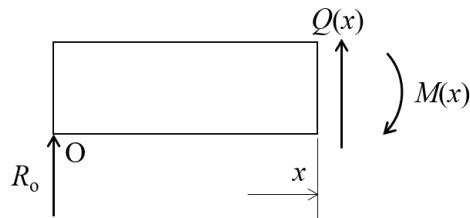


Fig. 2.3 FBD

せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

$$\begin{aligned} R_o + Q(x) &= 0 \\ Q(x) &= -P \end{aligned} \tag{2.4}$$

曲げモーメント $M(x)$ は x 点でのモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} R_o x + M(x) &= 0 \\ M(x) &= -Px \end{aligned} \tag{2.5}$$

(ii) $L \leq x < 3L/2$ の時

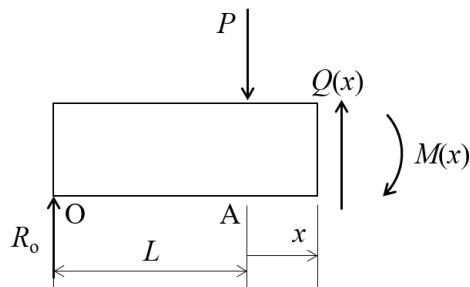


Fig. 2.4 FBD

せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

$$\begin{aligned} R_o + Q(x) - P &= 0 \\ Q(x) &= 0 \end{aligned} \tag{2.6}$$

曲げモーメント $M(x)$ は x 点でのモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} R_o x + M(x) - P(x-L) &= 0 \\ M(x) &= -PL \end{aligned} \tag{2.7}$$

以上より SFD, BMD は以下のようになる.

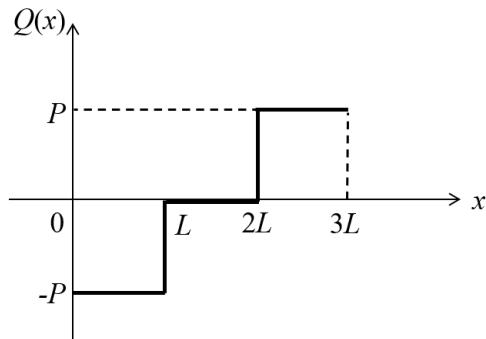


Fig. 2.5 SFD

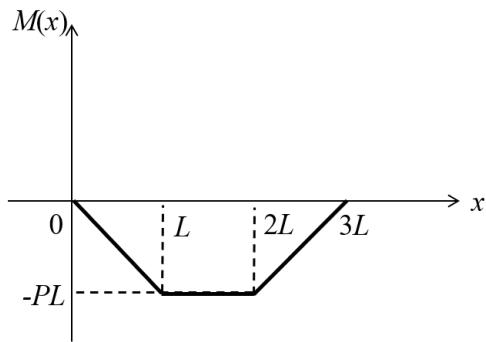


Fig. 2.6 BMD

(3) 点 O でのたわみ v_O , 対称性に注意して点 M におけるたわみ角 v'_M を求めよ.

点 O では単純支持されているため, たわみ v_O は

$$v_O = 0 \quad (2.8)$$

点 M では対称性より, たわみ角 v'_M は

$$v'_M = 0 \quad (2.9)$$

(4) M 点におけるたわみ v_M を求めよ.

たわみは以下の式によって算出される.

$$-EIv''(x) = M(x) \quad (2.10)$$

まず, $0 \leq x < L$ の範囲に関して考える. OA 間のたわみを $v_1(x)$ とすると式(2.10)より

$$-EIv''_1(x) = -Px \quad (2.11)$$

となる. これを積分して,

$$v_1'(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} Px^2 + C_1 \right) \quad (2.12)$$

$$v_1(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} Px^3 + C_1 x + C_2 \right) \quad (2.13)$$

となる。

次に, $L \leq x < 3L/2$ の範囲に関して考える。AM 間のたわみを $v_2(x)$ とすると式(2.10)より

$$-EIv_2''(x) = -PL \quad (2.14)$$

となる。これを積分して,

$$v_2'(x) = \frac{1}{EI} (PLx + C_3) \quad (2.15)$$

$$v_2(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PLx^2 + C_3 x + C_4 \right) \quad (2.16)$$

となる。

(3)より, 点 O でのたわみ v_0 は 0 であることから,

$$v_1(0) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} P \cdot 0^3 + C_1 \cdot 0 + C_2 \right) = 0$$

$$\therefore C_2 = 0 \quad (2.17)$$

一方で, 点 M でもたわみ角は 0 であることから,

$$v_2'\left(\frac{3L}{2}\right) = \frac{1}{EI} \left(PL \cdot \frac{3L}{2} + C_3 \right) = 0$$

$$\therefore C_3 = -\frac{3}{2} PL^2 \quad (2.18)$$

点 A での連続性を考慮すると, $v_1(L) = v_2(L), v_1'(L) = v_2'(L)$ であることから,

$$v_1'(L) = v_2'(L) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL^2 + C_1 \right) = \frac{1}{EI} \left(PL^2 - \frac{3}{2} PL^2 \right)$$

$$\therefore C_1 = -PL^2 \quad (2.19)$$

$$v_1(L) = v_2(L) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} PL^3 - PL^3 \right) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL^3 - \frac{3}{2} PL^3 + C_4 \right)$$

$$\therefore C_4 = \frac{1}{6} PL^3 \quad (2.20)$$

したがって、OA 間のたわみ、AM 間のたわみはそれぞれ

$$v_1(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} Px^3 - PL^2 x \right) \quad (2.21)$$

$$v_2(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PLx^2 - \frac{3}{2} PL^2 x + \frac{1}{6} PL^3 \right) \quad (2.22)$$

となる。

点 M でのたわみは、 $x=3L/2$ を代入して、

$$\begin{aligned} v_M &= v_2 \left(\frac{3}{2} L \right) \\ &= \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL \left(\frac{3}{2} L \right)^2 - \frac{3}{2} PL^2 \left(\frac{3}{2} L \right) + \frac{1}{6} PL^3 \right) \\ &= -\frac{23}{8} \frac{PL^3}{Ed^4} \end{aligned} \quad (2.23)$$